

近代日本画

水田コレクションにみる



会期 2026.10.21 水 ~ 11.8 日

10/30(金)、31(土)=本学大学祭「高麗祭」 休館日=10/25(日)、29(木)、11/1(日)、5(木)

▶ノベルティとして両展覧会のメインビジュアルを使用したクリアフォルダーを配布します。(会期中先着 1500 名様)

Open:9:30 ~ 16:30 Admission fee: free

▲Gallery 1

交通のご案内 / Access

(右) 菱田春草《春景山水》絹本着色、一幅、明治 30 年代 (1897 ~ 1906)、116.5×41.8cm、当館蔵
(左) 《諸名家画帖》絹本着色、一帖三十一図、明治 30 年 ~ 35 年 (1897 ~ 1903) 頃より
滝和亭「山郷雅味」部分、23.4×28.4cm、当館蔵

城西大学水田美術館
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY

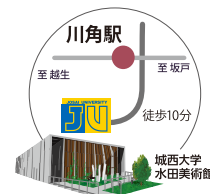


【電車の場合】
東武東上線坂戸(さかど)駅乗換え、東武越生線川角(かわかど)駅下車徒歩 10 分
東口改札 (IC、切符) または学園口改札 (IC のみ) のいずれかをご利用ください。
※東口改札から出る場合、踏切を渡ります。

【お車の場合】
1. 関越自動車道「鶴ヶ島 I.C」を出て、鶴ヶ島方面に進み国道 407 号線を直進
2. 「御折町四丁目」交差点で右折し、右に「狩野動物病院」の看板がある交差点で右折
3. 「一本松」交差点を毛呂山方面に直進
4. 「万年橋」を渡り、「明海大学病院」の看板がある交差点を左折し直進、踏切を渡り
登り坂を進むと突き当りに城西大学正門入口
5. 正門守衛より駐車場のご案内をいたします。(台数には限りがあります。)
※鶴ヶ島 I.C より約 20 分

城西大学水田美術館
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
1-1 Keyaki-dai, Sakado-shi, Saitama 350-0295 JAPAN
Phone :049-271-7327 https://www.josai.ac.jp/museum/



1.

明治時代に入り、日本にもたらされた西洋絵画に刺激を受けた画家たちは、それらを吸収しながら伝統的な日本絵画の技法や主題を見つめ直し、日本独自の絵画となる「日本画」を目指し模索しました。本展では、浮世絵コレクションで知られる水田コレクションのなかであって、数は少ないものの、明治から昭和までの代表的な画家の佳作など確かな存在感を示す近代日本画をご紹介します。下村観山、菱田春草、前田青邨、松林桂月といった黎明期から成熟期にかけての画家の作品や、浮世絵の風情を継承した北野恒富、伊東深水、山川秀峰の美人画を展示、さらに最後の浮世絵師とされる月岡芳年の美人画、尾形月耕の源氏絵など明治期の木版画も加えた 22 名の画家による計 28 点をご覧くださいます。

関連企画

■スライドトーク：学芸員による展示解説

- ・日にち：10 月 27 日 (火)、11 月 4 日 (水)
- ・時 間：各日午後 2 時 ~ (約 40 分)
- ・場 所：美術館 1 階多目的スペース
- ・申 込：不要 (開始時間までに 1 階にお集まりください)

*座席数には限りがございます



2.



3.



5.



4.



6.



7.

1. 下村観山《老松図》絹本着色 一面、大正 4、5 年 (1915、16) 頃、48.5×158.2cm
2. 北野恒富《納涼美人図》絹本着色 一面、大正時代 (1912 ~ 26)、101.1×50.4cm
3. 《諸名家画帖》絹本着色、一帖三十一図、明治 30 年 ~ 35 年 (1897 ~ 1903) 頃、23.4×28.4cm より、小堀桐音「月見」
4. 《諸名家画帖》絹本着色、一帖三十一図、明治 30 年 ~ 35 年 (1897 ~ 1903) 頃、23.4×28.4cm より、滝和亭「山郷雅味」
5. 菱田春草《春景山水》絹本着色、一幅、明治 30 年代 (1897 ~ 1906)、116.5×41.8cm
6. 月岡芳年《風俗三十二相 はづかしさう 明治年間むすめの風俗》大判錦絵、明治 21 年 (1888)
7. 東洲勝月《国会議事堂之図》大判錦絵三枚続、明治 23 年 (1890)

*すべて当館蔵

久保孝久 風景画展

—自然の詩を紡いで—



《嬌恋早春》紙本彩色 一面、150号、2023年（第108回院展入選作品）

会期 2026.10.21 水 ～ 11.8 日

10/30(金)、31(土)=本学大学祭「高麗祭」 休館日=10/25(日)、29(木)、11/1(日)、5(木)

▶ノベルティとして両展覧会のメインビジュアルを使用したクリアフォルダーを配布します。（会期中先着1500名様）

Open:9:30～16:30 Admission fee: free

▲Gallery 2

交通のご案内 / Access

城西大学水田美術館
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY

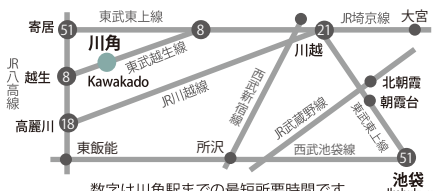
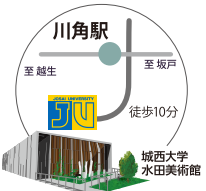


【電車の場合】
東武東上線坂戸（さかど）駅乗換え、東武越生線川角（かわかど）駅下車徒歩10分
東口改札（IC、切符）または学園口改札（ICのみ）のいずれかをご利用ください。
※東口改札から出る場合、踏切を渡ります。

【お車の場合】
1. 関越自動車道「鶴ヶ島IC」を出て、鶴ヶ島方面に進み国道407号線を直進
2. 「御折町四丁目」交差点で右折し、右に「狩野動物病院」の看板がある交差点で右折
3. 「一本松」交差点を毛呂山方面に直進
4. 「万年橋」を渡り、「明海大学病院」の看板がある交差点を左折し直進、踏切を渡り
登り坂を進むと突き当りに城西大学正門入口
5. 正門守衛より駐車場のご案内をいたします。（台数には限りがあります。）
※鶴ヶ島ICより約20分

城西大学水田美術館
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1
1-1 Keyaki-dai, Sakado-shi, Saitama 350-0295 JAPAN
Phone :049-271-7327 https://www.josai.ac.jp/museum/



県内在住の日本画家・久保孝久（1950-）の風景画を紹介します。自然のなかに身を置き、時の流れや空気が静かに変わりゆく様子を繊細にとらえる久保の作品からは、万物の営みによって生み出されていく自然の小さな詩が聞こえてきます。

本展は、2020年度当館で開催した「久保孝久風景画展—自然を見つめて—」に続く作品展で、院展に初入選した初期作《春韻》など旧作3点に、新作5点を加えた8点を展示します。
作家が紡ぎ続けてきた軌跡をご覧ください。

関連企画

■作家在室日

- ・日にち：10月24日（土）、30日（金）、11月7日（土）
- ・時 間：各日午後1時～4時

※都合により予定変更になる場合がございます。予めご了承ください。



1.

久保 孝久



略歴

- | | | |
|---------|--------|---|
| 昭和 25 年 | （1950） | 埼玉県生まれ |
| 48 年 | （1973） | 埼玉大学教育学部美術科卒業 |
| 49 年 | （1974） | 日本画家 大野百樹の教えを受ける |
| 56 年 | （1981） | 第 66 回院展《春韻》初入選 |
| 58 年 | （1983） | 第 68 回院展《寂韻》、日本美術院 院友となる |
| 59 年 | （1984） | 第 69 回院展《晩秋》 |
| 60 年 | （1985） | 第 70 回院展《龍門の滝》 |
| 62 年 | （1987） | 第 72 回院展《日光の滝》 |
| 63 年 | （1988） | 第 73 回院展《懸崖》 |
| 平成 5 年 | （1993） | 第 78 回院展《夕照》 |
| 8 年 | （1996） | 第 81 回院展《野辺山》 |
| 12 年 | （2000） | 第 55 回春の院展《雪の道》外務省買上げ
第 85 回院展《残雪の道》 |
| 13 年 | （2001） | 第 56 回春の院展《残雪》外務省買上げ
第 86 回院展《光徳への道》 |
| 21 年 | （2009） | 第 94 回院展《雪林に輝く》
日本美術院 特待となる |
| 23 年 | （2011） | 第 96 回院展《光の高原》 |
| 25 年 | （2013） | 第 98 回院展《秋翳る道》 |
| 26 年 | （2014） | 第 99 回院展無鑑査《残雪の高原》 |
| 27 年 | （2015） | 第 100 回院展《雪林》 |
| 28 年 | （2016） | 第 101 回院展《雪惜しむ高原》 |
| 29 年 | （2017） | 第 102 回院展《雪林に差す》 |
| 30 年 | （2018） | 第 103 回院展《高原に佇む》 |
| 令和 元年 | （2019） | 第 104 回院展《沖つ波》 |
| 2 年 | （2020） | 第 105 回院展《早春の道》 |
| 3 年 | （2021） | 第 106 回院展《厳冬に見つめて》 |
| 5 年 | （2023） | 第 108 回院展《嬌恋早春》 |
| 6 年 | （2024） | 第 109 回院展《鴨川に寄せる波》 |
| 7 年 | （2025） | 第 110 回院展《嬌恋の暮れる道》 |

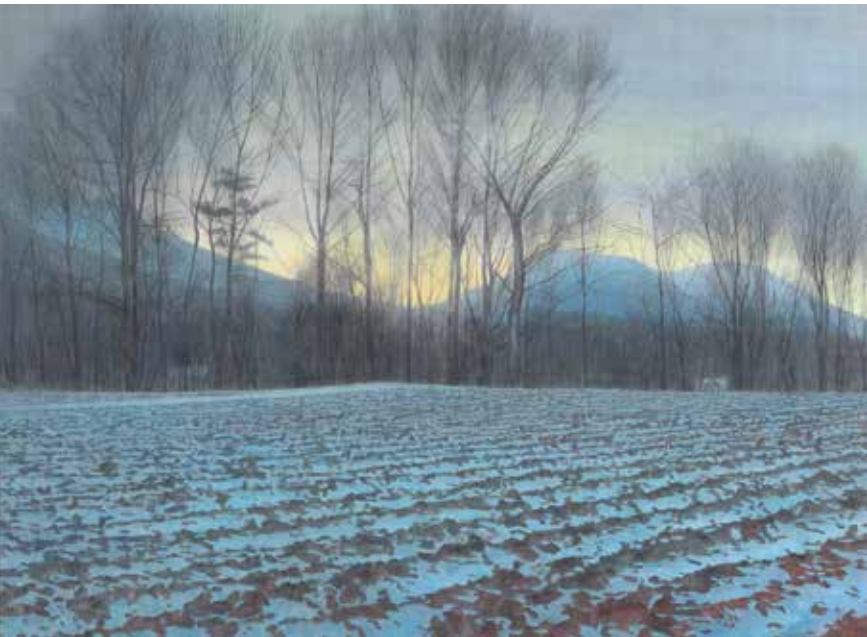
現 在 日本美術院 特待



2.



3.



4.



5.

1. 《春韻》1981年（第66回院展出品・初入選）
2. 《懸崖》1988年（第73回院展出品）
3. 《残雪の道》2000年（第85回院展出品）
4. 《高原に佇む》2018年（第103回院展出品）
5. 《早春の道》2020年（第105回院展出品）
6. 《鴨川に寄せる波》2024年（第109回院展出品）
7. 《嬌恋の暮れる道》2025年（第110回院展出品）

※すべて、紙本着色、一面、150号、作家蔵



6.



7.